



損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル3 7階
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

「NPO法人設立資金」贈呈式が全国で開催されました

平成17年度「NPO法人設立資金助成」は全国から229件の応募を受け付け32都道府県69団体への助成が決定し、首都圏地区につきましては、すでに7月7日に本社ビルにて贈呈式が開催されました。

(「損保ジャパン記念財団ニュース4月・7月合併号」11ページ以降をご参照下さい)

その他の地区につきましては、7月から全国各地において助成先の地区を担当する損保ジャパンの地区本部または支店主催にて、逐次実施されました。お忙しい中、ご協力いただいた皆様には、損保ジャパングループの社会貢献の一翼を担っていただき深く感謝申し上げます。

なお、全国各地で新聞紙上などに掲載された贈呈式の模様は、5ページ以降に掲載しています。

「自動車購入費助成」の助成先決定！！

当財団社会福祉事業の「NPO法人設立資金助成」に次ぐ大きな柱である「自動車購入費助成」の助成先が決定しました。

今年度は西日本地区を対象に公募を実施し(募集期間9月1日～17日)、応募総数148件の中から10月24日開催の「社会福祉選考委員会」(委員長:板山賢治氏 社会福祉法人浴風会理事長)で次の障害者福祉団体への助成が決定いたしました。助成金額は1件当たり100万円、総数10件総額1,000万円になります。贈呈式は損保ジャパンの該当地区において開催される予定です。

都道府県	団体名	代表者名	都道府県	団体名	代表者名
石川県	NPO法人 KMCキャンワーク	福森 隆子	兵庫県	NPO法人 まいど いん あまがさき	見市 幸男
愛知県	NPO法人 たすけあい三河	加藤 政実	兵庫県	波の家	伊藤 隆
京都府	NPO法人 福知山BGM福祉サービス	山田 周一	広島県	脳外傷サポートセンター	馬屋原 誠司
大阪府	特定非営利活動法人 塚ふれあいネット	辻原 貞巳	高知県	特定非営利活動法人 日高わのわ会	濱田 善久
大阪府	NPO法人 山王相互互助協会	田中 善之	鹿児島県	特定非営利活動法人 Medical Cooking Teatree	安里 裕子

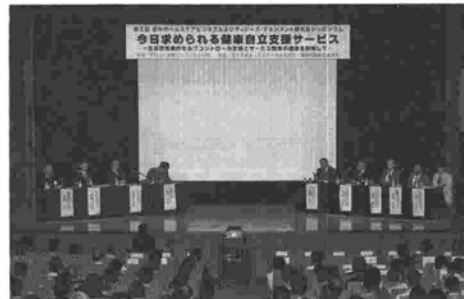
第2回ディーズ・マネジメント研究会のシンポジウムが開催されました

「今日求められる健康自立支援サービス —生活習慣病のセルフコントロール支援とサービス効果の追求を目指して—」

9月29日（木）、東京商工会議所東商ホールにて「今日求められる健康自立支援サービス—生活習慣病のセルフコントロール支援とサービス効果の追求を目指して—」と題して、第2回欧米のヘルスケアおよびディーズ・マネジメント研究会シンポジウムを開催いたしました。本シンポジウムは2003年11月に開催した第1回に続くものであり、今回は厚生労働省の中島健康局長、日本医師会の櫻井副会長に講演いただいたほか、著名な先生方によるパネルディスカッションにおいて生活習慣病や疾病予防について議論をいただきました。今回は損保ジャパンがオムロンヘルスケアと合弁で設立した「株式会社ヘルスケア・フロンティア・ジャパン」の設立を記念したシンポジウムでもあり、健康保険組合・企業・大学・医療関係などからの参加者は400名を超え、生活習慣病予防・健康自立支援への関心の高さが伺われました。

1. 主催・後援・協賛

- ・主催：財団法人損保ジャパン記念財団
- ・後援：厚生労働省
社団法人日本医師会
健康保険組合連合会
- ・協賛：株式会社損害保険ジャパン
オムロンヘルスケア株式会社
株式会社損保ジャパン総合研究所
株式会社ヘルスケア・フロンティア・ジャパン



シンポジウム会場の様子

2. シンポジウムコーディネーター

- ・慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 田中 滋 氏

慶應義塾大学
大学院教授
田中 滋 氏



3. シンポジウムプログラムおよび講師・パネリスト

- <1> 【開会挨拶】 14:00-14:10
・財団法人損保ジャパン記念財団 専務理事 田中 皓
- <2> 【基調講演】 14:10-14:40
・『生活習慣病対策の総合的な推進』
厚生労働省 健康局長 中島 正治 氏
- <3> 【特別講演】 14:40-15:00
・『生活習慣病対策と地域医療の質の向上における
かかりつけ医の重要性』
日本医師会 副会長 櫻井 秀也 氏
- <4> 【ディーズ・マネジメント研究会報告講演】 15:00-15:20
・『ディーズ・マネジメント手法を活かした、
我が国における新たな健康自立支援の仕組み』
産業医科大学公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 氏
- <5> 【パネルディスカッション】 15:30-16:40
・『今日求められる健康自立支援サービス』
(パネリスト (50音順))
- | | | |
|---------------------------|---------------|---------|
| 日本糖尿病学会常務理事 | 順天堂大学医学部内科学教授 | 河盛 隆造 氏 |
| 日本医師会副会長 | | 櫻井 秀也 氏 |
| 健康保険組合連合会理事 | | 椎名 正樹 氏 |
| 厚生労働省政策企画官 (社会保障担当参事官室併任) | | 城 克文 氏 |
| 日本動脈硬化学会理事 | 帝京大学医学部内科学教授 | 寺本 民生 氏 |



厚生労働省健康局長
中島 正治 氏



日本医師会副会長
櫻井 秀也 氏

厚生労働省健康局長
日本高血圧学会理事 獨協医科大学循環器内科教授
産業医科大学公衆衛生学教室教授

中島 正治 氏
松岡 博昭 氏
松田 晋哉 氏

<6> パネルディスカッション・シンポジウム総括 16:40-17:00

・『セルフコントロール支援の重要性の高まりと今後への展望』

慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 田中 滋 氏

<7> 株式会社ヘルスケア・フロンティア・ジャパンの誕生について 17:00-17:10

株式会社ヘルスケア・フロンティア・ジャパン 取締役社長 百瀬 剛

「損保ジャパン記念財団賞」の審査が開始されました

わが国における社会福祉分野の人材育成を目的として、優れた学術文献を表彰する「平成17年度（第7回）損保ジャパン記念財団賞」の候補文献は、著書部門16件15編、論文部門7件7編の推薦を受け付けています。（9月16日現在）

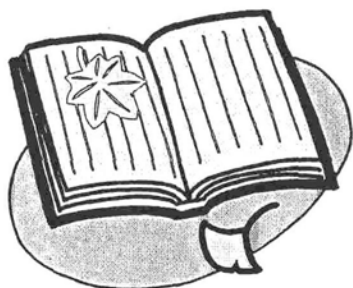
推薦は、日本社会福祉学会役員、日本地域福祉学会役員をはじめ社会福祉系登録学会協議会に所属する学会役員・日本社会福祉教育学校連盟に所属する大学学部長など、当財団が定めた「指定推薦者」の方々をお願いしています。

本年度の「損保ジャパン記念財団賞」は、9月26日（月）の「第1回審査委員会」（審査委員長：大橋謙策氏 日本社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長）から3回にわたる厳しい審査委員会を経て理事会に推薦され、来年2月の理事会で決定されます。

なお、7月9日（土）に開催されました「第6回損保ジャパン記念財団賞」受賞者記念講演会の講演録が、年内に【財団叢書 No. 70】として刊行される予定です。希望者には無料で配布させていただきます。



9月26日の
審査委員会の様子



NPO支援財団研究会平成17年度シンポジウム in長野

「地域社会の活性化と助成財団の役割」 —社会システムとしての新たな資金調達のあり方を考える—

11月5日(土)、JA長野県ビルにて、NPO支援財団研究会の主催による題記シンポジウムが開催されました。NPO支援財団研究会は平成13年度に発足し、NPO活動への支援に関心のある助成財団、日本経団連、共同募金会、NPO関係者、学識者等の各界メンバーにより構成され、当財団からは田中専務理事が参加しています。研究会では今年のテーマを「地域社会の活性化と助成財団の役割」とし、秋田(9月)、札幌(10月)でシンポジウムを開催し、長野では、NPO法人長野県NPOセンターとの共催により実施しました(当財団が事務局)。

このシンポジウムでは、長野県・長野市・社会福祉協議会・共同募金会の後援のもと、基調講演を法政大学教授・日本NPOセンター副代表理事である山岡義典氏にお願いし、パネルディスカッションでは、松代で各種資金をうまく活用し「まちづくりに」成功しているNPO法人と浅間温泉の旅館活用により福祉の街づくりを行っているNPO法人の2法人、長野市の行政担当者、助成財団関係者をパネリストに迎え、長野県NPOセンター代表理事の高橋卓志氏のコーディネートにより多様な資金源について論議がなされました。フロアからは、県の資金を融資している「NPO夢バンク」の紹介もなされ、100名近い参加者により、活発な議論が交わされました。シンポジウム終了後の名刺交換・交流会では、参加者と研究会メンバーである財団関係者が親しく意見交換する場となりました。

なお当日の様子は、NHKテレビの取材を受け、夕刻のニュースで放映されました。



長野のシンポジウム会場の様子



寄付のお礼

皆さまから暖かい寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。当財団の事業は、皆さまからの貴重な寄付金により成り立っております。法人、個人問わず広く寄付金を受け付けておりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。

(平成17年10月末日現在)

損保ジャパンちきゅうくらぶ 様
損保ジャパン山形支社 べにばな会 様

財団法人損保ジャパン記念財団

「NPO法人設立資金助成」
全国贈呈式特集

1ページで紹介しましたように首都圏地区以外の贈呈式は、全国の損保ジャパンの部支店において一斉に開催されました。その模様が掲載された各地の新聞記事や写真とともに、運営に携わっていただいた皆さんからの「一言感想」も併せてご紹介いたします。

(10月21日報告分)

■新聞掲載記事

No	開催部支店	掲載紙	頁	No	開催部支店	掲載紙	頁
1	東北海道支店	北海道新聞	6	17	中部業務部	贈呈式写真 一言感想	12
2		釧路新聞	6				
3	仙台支店	河北新報	6	18	滋賀支店	京都新聞	12
4	北北海道支店	北海道新聞	7	19	関西総務部	保険毎日新聞	13
5		北海道経済	7	20		読売新聞	13
6		メディア旭川	7	21		新日本保険新聞	14
7	岩手支店	岩手日報	8	22	京都支店	京都新聞	14
8		盛岡タイムス	8	23	奈良支店	贈呈式写真	14
9	山形支店	山形新聞	9	24	鳥取支店	日本海新聞	14
10	新潟支店	新潟日報	9	25	岡山支店	山陽新聞	15
11	金沢支店	北國新聞	10	26	徳島支店	徳島新聞	15
12	福島支店	福島民友	10	27	北九州支店	一言感想	15
13		福島民報	10	28	福岡中央支店	西日本新聞	15
14	茨城西支社	茨城新聞	11	29	鹿児島支店	南日本新聞	16
15	松本総合支社	市民タイムス	11	30	佐賀支社	佐賀新聞	16
16	静岡支店	静岡新聞	11	31	長崎支店	長崎新聞	16
				32	大分支店	大分合同新聞	16



1. 北海道新聞 (8/5)

NPO法人化へ
「青空」に助成金
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(東京)は釧路を中心に
活動する「地域たすけあ
いサービス 青空」(鍵
政弘子代表)に三十万円
の助成を決め、損保ジャ
パン東北北海道支店でこ
ほど贈呈式を行った。
同財団は特定非営利活
動法人(NPO法人)設
立を目指す全国の社会福
祉団体に助成しており、
今年は七十団体を助成。
「青空」は一九九九年に
設立。登録会員同士で家
事や高齢者介護などのサ
ービスを交換している。
助成金の証書を受け取
った鍵政代表は「NPO
法人化することで今以上
に地域の人たちに安心し
て利用してもらえ」と
感謝していた。

釧路地域は「青空」に

損保ジャパン
記念財団 社会福祉助成金を贈呈

財団法人損保ジャパン(NPO法人)設立資金とし
記念財団の2005年度で贈呈されるようになっ
た。今年度は全国で22
社会福祉助成金が、26日
釧路市内の損害保険ジャ
パン東北北海道支店で、地
域たすけあいサービス青
空(鍵政弘子代表)に贈
呈された。
この助成金は28年の歴
史を持つが、99年度から
贈呈式では財団理事長
特定非営利活動法人(N
は30万円。
代理者の東北北海道支店吉



鍵政代表(左)に通知書を渡す吉竹支店
長(右)

竹俊道支店長が、鍵政代
表に決定通知書を手渡し
た。「青空」は99年に
市民の相互たすけあい組
織として発足。会員制で
家事援助、介護や通院介
助、雪かきなどのサービ
スを有料提供している。
サービス提供の報酬をお
金でなく、将来自分のた
めの援助権利として保有
することもできる時間預
託制など、ユニークで細
やかな助け合いを実践し
ている。
鍵政代表は「NPO法
人化は設立当初からの目
的で、資金ができて大変
助かった。介護保険指定
業者とはならず、これか
れも保険のすきまで困っ
ている人の助けになるサ
ービスをこころで行っ
ていきたい」と謝辞を述
べた。
(坂上めぐみ)

2. 釧路新聞 (7/28)

「福祉ネット」に
30万円の助成金

損保ジャパン
記念財団

損保ジャパン記念財団
(東京)は、本年度のN
PO法人設立資金の助成
対象に、知的障害者の就
業支援に取り組む仙台市



福祉ネットABCの松浦
さんに、助成金の目録が
手渡された

宮城野区の「福祉ネット
ABC」を選び、助成金
三十万円を贈った。
損保ジャパン仙台支店
(仙台市宮城野区)で、
梶谷良一支店長が福祉ネ
ットABCの松浦典子さ
んに目録を手渡した。N
PO法人化の認可申請中
という松浦さんは「パソ
コン購入などに充てた
い」と感謝した。
福祉ネットABCは昨
年十月に設立。知的障害
者にレストラン事業や弁
当販売の仕事を提供し、
自立を支援している。
記念財団は一九九九年
度から毎年、NPO法人
を目指す民間福祉団体な
どに助成している。今回
は全国で七十団体が選ば
れた。



3. 河北新報 (8/29)

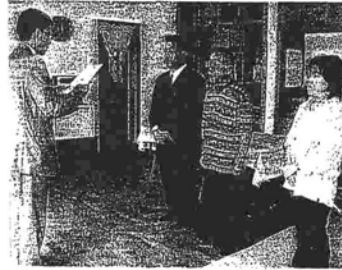
5. 北海道経済 (10月号)

4. 北海道新聞 (8/31)

損保ジャパン記念財団が
ゆい・ゆいに社会福祉助成

損保ジャパン記念財団(旧安田火災記念財団)はこのほど「ゆい・ゆい」に、社会福祉助成金30万円を授与した。

1977年に設立された同財団は、社会福祉の最前線で活躍する団体への助成事業、また学術的側面から



社会福祉の発展に寄与する学術研究に対する助成を行っている。

福祉活動を行う団体への助成はこれまで約1600件累積10億2000万円実施しており、今年度も全国にある70の団体に授与した。道内では4団体に授与されており、信頼しあい助け合える地域社会実現を目指すゆい・ゆいも対象となった。

8月30日には損保ジャパン北・北海道支店の登坂秀峰支店長がゆい・ゆいを訪れ、野々村代表に認定書を渡した。

知的障害者の支援
団体に30万円贈る

損保ジャパン記念財団(東京)は三十日、旭川市神楽岡の知的障害者支援団体「ゆいゆい」(野々村雅人代表)にNPO法人設立資金として三十万円を贈った。同財団は一九九九年から資金贈呈をしており、今年には全国七十団体が対象になった。



NPO「ゆい・ゆい」設立

旭川市内で知的障害者支援施設の運営活動を始めため、NPO(特定非営利活動)法人「ゆい・ゆい」発足の準備に余念がないのは、野々村雅人さん(35)



者レク・スポーツの支援充実などを手がける

既に軽度の知的障害を持つ女性(36)の生活支援を始めており「障害者福祉と

介護保障が将来一緒になる時のために、居宅グループホームのような施設を目指す」という。

前職は、剣淵町の知的障害者施設、西原学園の地域生活支援担当職。道レクリエーション協会生涯スポーツ担当理事を務め、実は神主の免許も持っているという変わり種。国学院大を卒業後、北海道神宮(札幌)で修行も積んでいる。

「剣淵にいた時から一般向けにレクリエーションスポーツの集いもしていたんです」。その経験から、今年11月には旭川市障害者福

8月30日 特定非営利活動法人「ゆいゆい」を登坂支店長と共に訪問し贈呈式を行ってまいりました。非常に感謝されました。

自宅兼事務所を知的障害者に開放しており、まさしく地域に根ざした活動をされておりました。野々村代表の熱意がひしひしと伝わってきました。

(北北海道支店
リーダー 井上成生さん)

6. メディア旭川 (10月号)

福祉施設「おびった」を会場に、ニユーススポーツの会を開く準備も着々。
NPO法人設立のための支援をしている損保ジャパン記念財団(東京)の社会福祉助成(30万円)も決まり、東奔西走している。

「NPOで頑張れ」
盛岡の団体に助成

損保ジャパン財団

損保ジャパン記念財団は、特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金として盛岡市前九年一丁目の障害者支援団体・六等星（齋藤真也代表）に三十万円を寄付した。贈呈式は盛岡市中央通二丁目の損保ジャパン岩手支店でこのほど行われ、坂本守支店長が「法人化でさらなる発展を期待している。地域の社会福祉向上に貢献してほしい」と齋藤代表に助成金決定通知書を手渡し

た。六等星は現在NPO法人設立申請中。障害者の通所施設を手掛けており、今後は地域社会との交流も進める。齋藤代表は「寄付は本当にありがたい。障害者が安心、充実した生活が送れるようサポートしていく」と感謝した。



坂本守支店長から助成金決定通知書を受け取る齋藤真也代表（左）

六等星に活動費助成
損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）の2005年度福祉助成で、県内2つの団体にNPO法人設立資金が助成されることにな

った。贈呈式は10日、盛岡市中央通の損保ジャパン岩手支店（坂本守支店長）で開かれ、体験をキーワードに障害者の生活を支援する「六等星」（盛岡市、齋藤信也代表）が30万円の助成を受けた。同財団のNPO法人設立資金助成は1999年度から実施され、今年で7回目。法人化した福祉団体が地域社会から認知されることで、地域の社会福祉向上に寄与するのが狙い。今年度は全国229件の応募の中から70団体が選ばれ、各30万円、合わせて2100万円の助成が決定した。本県からは六等星



損保ジャパン記念財団の福祉助成を受けた六等星の齋藤代表（左）

と「つばさの会」（盛岡市晴山恵美子代表）が選ばれた。坂本支店長は「いずれも法人化することで

大きく発展することが期待される。地域の社会福祉の向上に貢献されることを期待している」とあいさつした。

来賓を代表し、石川うしても体験活動が少くない。法定事業だけではまかなえないすき間部分に目を向け、この街で暮らして楽しいと思ってもらえるような支援をしていきたい」と話していた。いずれは子供の一時預かりや学童保育なども視野に入れていくという。早ければ9月中旬にNPO法人の認証を受ける予定。つばさの会への贈呈式は9月以降に開かれる。



NPO法人設立助成金贈呈式



NPO法人の
設立資金贈る 米沢
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)は



日、米沢市の特定非営利活動法人(NPO法人)「置賜自然と共育の村」(黒沢慶理事長)に、NPO法人設立資金として三十万円を贈呈した。置賜自然と共育の村は、同財団への応募時にNPO法人設立を計画中で、今年六月二十九日に認証を取得。米沢市口田沢で小規模作業所の「かこの家」「がんばる堂」の二施設を運営する。

贈呈式は損害保険ジャパン山形支店米沢支社で行われ、五田市番弘支店長が阿部英利副理事長に決定通知書を手渡した。同記念財団は一九七七(昭和五十二)年、社会福祉助成を目的に設立。NPO法人の設立助成は

九九年度からで、本年度は、全国で七十団体に総額二千百万円を贈る。

助成先の「置賜自然と共育の村」さんは、NPO法人化にむけての勉強も熱心にされており、新事業として「障害児デイサービス」「障害者就労支援事業」を開始される予定と伺いました。法人化を取得されてからの一層活発な活動が大いに期待されます。

(山形支店 高柳 恵子さん)

30万円助成を決定

損保ジャパン記念財団

新潟市自閉症親の会に

損保ジャパン記念財団(東京都)は、障害者や高齢者支援の活動に取り組み七十団体に助成金として各三十万円を支援することを決めた。本県では新潟市自閉症親の会に

(角田千里会長)が助成を受ける。

同財団は、民間レベルの福祉活動を推進しようとして、一九九九年から福祉関連の特定非営利活動法人(NPO法人)の設立などをサポート。今年までに全国六百四十団体に助成、支給額は一億九千万円に上る。

新潟市自閉症親の会は七三年の設立後、自閉症児の親同士の情報交換や

相互支援などを行ってきた。自閉症児を含む知的障害者や認知症の高齢者の財産を保護、管理する「成年後見制度」のスタートをきっかけに、法人化を目指している。角田会長は「自閉症に対する誤解や偏見を解消する啓発パンフレットづくり」に助成金を役立てたいと話している。

贈呈式は五日、新潟市の損害保険ジャパン新潟支店で行われる。





今回の贈呈先は、福祉サービス提供事業者に対して、その事業者が提供する福祉サービスの質を、公平中立な立場で評価したり、事業者や職員に対する研修・相談事業を行うNPO法人でした。

式後の懇談会では、これまでの活動内容や将来のビジョンについて大変熱心に語って頂きました。

助成金が社会福祉の更なる向上に寄与することにとっても感銘を受け、今後とも可能な限り協力をしていきたいという思いに満たされました。

(金沢支店 鈴木美香さん)

損保ジャパンが助成金
損保ジャパン記念財団
はNPO法人のシナジ
スマイル(金沢市)に30
万円の
助成金
交付を
決定し
た。日
保日
損保
パン
金
沢支店で贈呈式(写真)
が行われ、田島幸広支店
長は「社会福祉の貢献に
役立ててください」と述
べ、小坂健二代表に通知
書を手渡した。

11. 北國新聞 (8/5)

12. 福島民友 (8/11)

「光と風の工房」に
助成金30万円贈る
損保ジャパン記念財団
損保ジャパン記念財団の
特定非営利活動法人(NP
O)助成金贈呈式は十日、
福島市で行われ、同市の小
規模作業所「光と風の工房」



後谷支店長から決定通知書
を受け取る村上さん(左)
村上代表は「知的障害
者の自立を目指し、地域に
貢献できるような頑張りを
い」と述べた。同工房は助
成金三十万円を活用し、十
一月のNPO法人化を予定

(村上由紀代表)に決定通
知書を伝達した。
式では、後谷雅美福島支
店長が「地域の社会福祉の
向上に寄与してほしい」と、
村上代表に通知書を手渡し

している。
同財団は一九七七(昭和
五十二)年から社会貢献活
動として助成を行って、

る。NPO法人設立への助
成は九九年から実施、今年
は全国で七十件、総額千
百万円を助成した。

贈呈式には地元テレビの取材もあり、損保ジャ
パンのよいアピールになったのではないかと思います。
新聞2紙にも取材に来ていただけ、NPO等の
活動に対して関心の高さがうかがえました。

助成先の「光と風の工房」様からは代表者1名の
出席でした。TVの取材にも堂々とコメントをいた
だき、助成金も喜んでいただけました。大変有意義
に活用いただけたようです。

(福島支店 星育恵さん)

光と風の工房に
助成金30万円
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
は十日、福島市の小規模
作業所「光と風の工房」
に三十万円の助成金決定
通知書を贈った。NPO
法人の設立支援を目的と
した助成で、今年度は光
と風の工房をはじめ全国
の七十団体が選ばれた。
贈呈式は福島市の損保
ジャパン福島支店で行わ

れ、後谷雅美支店長が村
上由紀代表に助成金決定
通知書を手渡した。
光と風の工房は障害者
の自立と地域社会への貢
献を目指し、豆腐つくり
などを手がけている。



後谷支店長から決定通
知書を受け取る村上代
表(左)

13. 福島民報 (8/11)

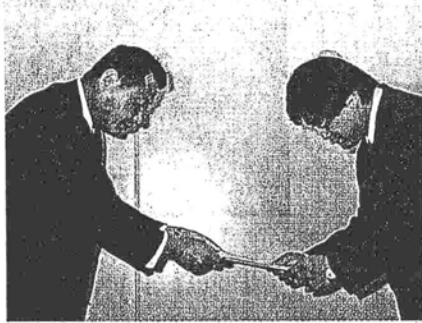




NPO法人に 助成金を贈呈

損保ジャパン記念財団

NPO法人設立を支援する損保ジャパン記念財団は本年度、県ポーター協会（谷島邦雄会長）への助成を決め、二十六日、下妻市下妻丁の損保ジャパン茨城西支社（佐藤宏文支社長）で贈呈式を行った。



佐藤支社長（左）から助成金を手渡される谷島会長
下妻市下妻丁

同協会は発達に遅れなどがあつた子どもを持つ親と、その親を支援する指導者で組織。指導者は、子どもの発達に合わせ家族が子どもを教育する「ポーターシッププログラム」の普及に努めてい

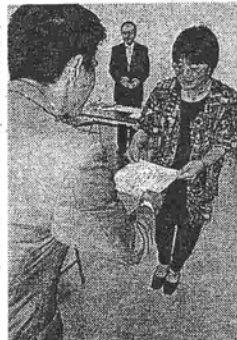
14. 茨城新聞 (8/27)

STSにNPO 設立資金を助成

損保ジャパン記念財団 財団法人損保ジャパン 記念財団（平野浩志理事長）は十七日、松本市大

手三の損保ジャパン松本総合支社（伊藤美知也支社長）で、障害者自律支援センター運営委員会・財団の理事長代理として伊藤支社長が桑原代表（代表世話人・桑原由紀さん）にNPOに目録を贈り、「社会福祉の先駆的な役割を担っ

15. 市民タイムス (8/18)



桑原代表（左）に助成金30万円の目録を贈る伊藤支社長（右）

てほしい」と、今後の活躍を期待した。桑原代表は「やりたいことは山ほどある。障害者に対する偏見をなくし、理解が広がるようにしていきたい」と話していた。

STSは松本市内を中心に活動する団体で、精神障害者の生活支援を目標とし、七月には市内初の精神障害者共同作業所

今年には二百二十九団体の応募の中から全国で七十団体を選考し、県内ではSTSが唯一の助成対象団体となつた。



「引きこもりがちな知的障害児の方々が、健常者と同じように活躍しているという当団体の活動に感銘すると共に、その活動にささやかでも貢献できると社会的使命感を実感しました。」
(静岡支店 リーダー 三澤雄一さん)

16. 静岡新聞 (8/30)

沼津の企業組合に NPO設立助成金

損保ジャパン 記念財団が贈呈

損保ジャパン記念財団（東京都）は二十九日、本年度のNPO法人設立資金の助成金三十万円を、企業組合イルカ（沼津市、中見宰理事長）に贈った。同社静岡支店（静岡市）で行われた贈呈式では、中嶋寛支店長と写真右が中見理事長に助成の決定通知書を手渡した。



同組合は知的障害児の母親らが二〇〇〇年一月に設立し、障害者の就業の場づくりを目指してグッズなどの製造販売を行っている。九月末にNPO法人化に向けた申請を行う予定。

中見理事長は「本当においしいクッキーを作ろうと活動してきた。NPO化して、より地域に密着し、社会に協力できる活動にしていきたい」と述べた。



17.



どの団体の方も非常に熱心で本業をもちながらの活動であったり、少ない人数や資金で色々苦勞されながらも地道にこつこつと活動していることなどをお聞きし、たいへん頭の下がる思いがしました。
 (中部業務部 総務課 主任 田中幹夫さん)



親保ジャパン記念財団
 NPO法人設立助成金贈呈式



18. 京都新聞 (9/9)

■NPO法人化へ助成金
 草津市心身障害児者連絡協議会(井上庄二郎会長)は、NPO法人(特定非営利活動法人)化に向け、このほど財団法人・損保ジャパン記念財団(東京都)か



ら設立資金の助成を受けた一写真。
 市内の3団体と5施設でつくると協賛会は、1986年3月に発足。障害のある人の自立を支援している。NPO法人にしていきた年内をめどにNPO法人化を目指しており、今回、同財団に設立の趣旨が認められ、助成金30万円を受けた。協賛会の正田隆生事務局長は「地域に親しまれるNPO法人にしていきたい」としている。

大阪・兵庫地区
社会福祉助成金

贈呈式を開催



障害者や高齢者福祉団体に對し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立のための資金助成をしている(財損保ジャパン記念財団は、2005年度の社会福祉助成金を70団体(1団体に30万円)、2100万円を決定したが、その大阪・兵庫地区の贈呈式が、9月1日午後2時から損保ジャパン大阪ビル11階特別会議室で行われた。当日は、主催者側の損保ジャパンから豊(うてな)祐一郎関西総務部長、松田剛総務課長、損保ジャパン記念財団から富沢泰夫事務局長、今年度の助成先の8団体(2団体は欠席)から11人の関係者が出席した(写真左)。



70団体に総額2100万円贈呈



豊氏



富沢氏

損保ジャパン記念財団の「NPO法人設立資金助成」は、民間福祉活動を推進するために1999年から実施し本年度で7回目。一般法人よりも設立が容易なNPO法人の設立を支援することで、法人化した福祉系団体が地域社会から認知され、さらに活発な活動を展開していくことで地域の社会福祉に大きく寄与することを目的としている。

7年間の助成金累計は、640団体に対し合計1億9000万円。77年の財団創設から社会福祉助成は28回目(NPO法人設立助成は7回目)、社会福祉助成金の累計は本年度分を含め11億9000万円にのぼっている。

主催者側を代表して豊祐一郎関西総務部長は、損保ジャパンの記念財団が設立された経緯や目的について述べ、「今年度は28年目になるが、助成の倍率が10倍を超えるために、助成対象を絞る必要が生じた。99年から特定非営利活動促進法に基づ

くことから助成対象を高齢者、障害者団体に限定し、これらの団体がNPO法人になるために助成を行っている」と同制度の趣旨を説明し、毎年、70団体に2100万円を助成していると述べた。また、「助成を受けたそのほとんどが法人化し各地で活躍しており、私どもとしてもうれしい限り」とあいさつした。

損保ジャパン記念財団の富沢泰夫事務局長は、「この制度の助成はユニークでほかの財団にない高い評価を得ている」とし、事業の特色である①助成の申請手続きが簡単②NPO法人の申請検討中である段階から助成を申し込める③設立のための資金であれば使途は自由④「使い勝手のよい助成金」として紹介。応募の傾向と選考に当たった際の選考委員会の考え方について述べた。

次に豊部長から助成決定通知書の交付が行われ、各助成先団体の代表者に手渡された。続いて各団体から今後の抱負として、「家族会が中心となり、精神障害者の小規模作業所を立ち上げ利用も増えてきたが、運営基盤が脆弱(ぜいじゃく)だ。精神障害児の一人ひとりが、よりよい暮らしができるように努力していきたい」「障害者と健常者が共に働いている。内情は苦しいが、組織をきっちりするために応募した」「会費も取らず、掛かったお金は頭割りを出し合っているために資金がゼロという状態。今回の支援が決まった時に、堺市からも委託事業が決定した。頂いた助成金を生かすように頑張る」などが語られた。

- ▽精神障害者小規模作業所フレンドリーバル(大阪市住之江区)
- ▽特定非営利活動法人びーす(現・堺おもちゃ図書館ぼっぼ)(堺市)
- ▽肢体不自由児者連所つみきハウス(尼崎市)
- ▽ひやしんす(神戸市北区)
- ▽共働事業所 陽だまり(篠山市)
- ▽障害者小規模作業所 生き生き生活支援センター(神戸市)
- ▽なないろのハート障害者協働事業所(川西市)
- ▽尼崎中央家族会(尼崎市)

7年間の助成金累計は、640団体に対し合計1億9000万円。77年の財団創設から社会福祉助成は28回目(NPO法人設立助成は7回目)、社会福祉助成金の累計は本年度分を含め11億9000万円にのぼっている。

関西第一・第二本部の贈呈式では、寄付先団体から日頃の活動で苦労していること等を一言ずついただきました。各分野及び地域で地道な活動をされている方のお話を直接お聞きして、あらためて感銘を受け助成の意義を強く感じました。また贈呈式後は、和やかな情報交換会が行われ、大変有意義な時間となりました。中でも障害者の作業所では、「せっかく商品を作っても売れる場所がなくて困っている」という話を聞き、ぜひ大阪ビルで実施するバザーでも出品してもらえばと思いました。今後も、今回受賞された団体活動の発展を暖かく見守っていききたいと思います。(関西総務部 総務課 業務主任 寺川真紀子さん)

20. 読売新聞 (8/18)



NPO法人設立助成
府内2団体選ぶ
損保ジャパン記念財団(東京都新宿区)は、全国70の障害者・高齢者福祉団体に對して、NPO法人の設立資金として各30万円、計2100万円を助成することを決めた。府内の対象団体は以下の通り。
精神障害者小規模作業所「フレンドリーバル」(住之江区)・特定非営利活動法人「びーす」(堺市深井清水町)



損保ジャパン・大阪 助成金贈呈式開く
 損保ジャパン記念財団は、平成17年度の社会福祉助成金を全国70の障害者・高齢者・福祉者・高齢者・重要な役割を担っている団体に対して、福祉の充実に向け率先して活躍されることを期待して「まがね」を贈呈した。また、決定通知書が各団体に手渡され、代表者が現在の活動内容や今後の抱負について語った。

として各30万円、合計2100万円の助成を決定したが、そのうち大阪・兵庫地区の助成先への贈呈式を9月1日午後2時から損保ジャパン・大阪ビルで開催した。

当日は、大阪2団体、兵庫4団体の代表者ら11名と、同財団の富沢泰夫事務局長、損保ジャパン関西総務部の豊祐一郎部長、同総務課の松田剛課長の3名が出席。富沢事務局長が今回の助成先選考の経緯などを説明し、「これからのわが国の発展は市民活動の活性化にかかっています。中でもNPO法人はけん引役であり、重要な役割を担っていますので、福祉の充実に向け率先して活躍されることを期待して「まがね」を贈呈した。



NPO法人化助成 中京の福祉団体へ 損保ジャパン財団
 財団法人損保ジャパン記念財団(東京都)はこのほど、本年度のNPO法人(特定非営利活動法人)設立資金助成金の交付先を決定した。京都府内では京都市中京区の「心病む人々のステップアップ支援実行委員会」(加藤博史代表)が選ばれた。

被害者や高齢者の福祉団体を対象にNPO法人化による活動推進を支援する目的で六年前から始め、本年度は全国七十団体に各三十万円、総額二千百万円を助成した。

京都から選ばれた同実行委は、精神障害者をはじめ障害者の就労支援活動を拡充するため、本年度中のNPO法人設立を目指している。



淀江作業所に 助成金を贈呈

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団は、精神障害者小規模作業所「淀江作業所」(米子市淀江町淀江)にNPO法人設立資金を助成するに当たり、同市西福原一丁目のホテルサンルート米子で贈呈式を行った。助成金三十万円が、

県内では淀江作業所が選ばれ、同社鳥取支店(鳥取市今町二丁目)の鬼沢豊伸支店長が同作業所の利用者、八田一明さんと職員の大田百子さんに社会福祉助成決定通知を贈呈した。

九月下旬にNPO法人設立予定の淀江作業所の活動資金に当てられる。同記念財団は一九九九年から障害者・高齢者福祉団体に対し、NPO法人設立のための資金の助成を開始。今年は全国二百二十九件の応募の中から、七十団体へ計二千百万円の助成が決まっている。

大田さんは「自分たちの思いを認めていただいととてもうれしい」と喜んでた。鬼沢支店長は「地域の活動をこれから話していた。」



NPO法人設立資金助成金

福祉2団体に
助成金を贈る
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(理事長・平野浩志損害保



助成は、特定非営利活
動法人(NPO法人)の
設立支援が目的。関係者
七人が出席し、光内俊雄
支店長が「立派な法人と
して、地域社会の福祉向
上に尽くしてください」と
あいさつ。精神障害者
を対象にした作業所運営
の「鴨方希望の会」(鴨
方町)と、「身体障害者
ケア&サポートセンター
風」(赤磐市)の代表者
に、助成決定の通知書を
手渡した。

同財団は、NPO法人
設立支援助成を一九九
九年度から毎年度実施。本
年度は応募二百二十九団
体に対し、全国七十団体
に各三十万円を贈る。

財団の本年度の助成団体
が決まり、徳島県内で唯
一選ばれた美馬市脇町脇
の小規模共同作業所「シ
ヨップうだつ」(森本昇
代表)に助成金30万円が
贈られた。贈呈式では、
損害保険ジャパン徳島支
店の谷口正治支店長が森
本代表に助成決定通知書
と目録を手渡した。

補助・助成
NPO法人の設立を支
援する損保ジャパン記念



「はるかぜ」は、和紙の紙すき(ハカキ・名刺の作成)やめがねクリーナーや喫茶「オルゴール」での接客及び調理といった仕事を中心に運営されている共同作業所です。

施設代表者の方は、福岡県の春日市には、身障者共同作業所が「はるかぜ」1施設しかないという現状で、もっと多くの身障者が集えるようNPO団体として認可される必要があるとの展望をお持ちでした。そのような施設に社会貢献活動の一環として寄与することができたのは、記念財団が設置されているからこそと、感謝いたしました。

また、助成金の授与式では代表者の方でなく施設の子供たちが受け取り、身体全体でうれしさを表現していました。その、素直な身障者の方々の姿に、日常の慌しさから解放されたような晴れ晴れとした気持ちで帰社することができました。

(九州第1業務部総務課
業務主任 初 洋子さん)



共同作業所はるかぜに
助成金30万円を贈呈
損保ジャパン記念財団
財団法人「損保ジャパ
ン記念財団」(東京)は
二十八日、春日市下白水
南の「共同作業所はるか
ぜ」に、特定非営利活動
法人(NPO法人)の設
立資金として三十万円を
贈った。写真。

同財団は全国の福祉団
体に助成金を贈ってお
り、今年も七十団体が対
象。「はるかぜ」は現在、
県にNPO法人化を申請
中。

「はるかぜ」で開かれ
た贈呈式で、西田幸人・
損保ジャパン福岡中央支
店長は一さらに活発な活
動を展開し、地域の社会
福祉の向上に貢献される
ことを期待します」とあ
いさつ、助成決定の通知
書を手渡した。

はるかぜの辻誓子代表
は「仲間たちが地域で働
き、安心して暮らせるよ
う頑張っていきたい」と
話した。

意見交換では「なおみの会」で製作している作品を発表し販売することで団体の活動範囲を広げていきたいとの要望がありました。その中で、販売する場を損保ジャパンで提案できないか、という団体支援の話もできました。

平成15年度助成団体である「ドリドリ」会から藤田睦世会長と他1名にもお越しいただき、NPOを立ち上げるにあたっての留意点やNPO会計の苦労談もお聞かせいただきました。

またNPO活動取材し、その実態を市民に知らせるハンドブック作りをしている北九州市立大学「キャンパスステーション」の学生2名：船津美幸さんと執行秀一さんにオブザーブとして参加していただき「贈呈式の雰囲気やご活躍されている方々のお話を聞くことができ、勉強になりました。」とのお礼状を後日いただきました。(北九州支店 業務主任 前田綾さん)

◆損保ジャパン記念財団がNPO法人の設立を助成。全国70団体に對し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立のための資金計2100万円の助成を決めた。鹿児島県内の助成団体は聴覚障害児の支援活動を行うNPOデフNet。かこしま(鹿児島市)。25日、同社鹿児島支店(同市)で30万円を贈った。同助成は今年7回目。累計で640団体に計1億9000万円を贈っている。



福祉作業所に 助成金30万円
 損保ジャパン財団
 佐賀市 鳥栖市
 パン記念財団(平野浩志理事長)は二十四日、鳥栖市の知的障害者福祉作業所「コスモス夢工房」(山内照代所長)にNPO法人設立助成金三十万円を贈った。

同財団は、障害者や高齢者福祉団体のNPO法
 佐藤彰彦支店長(左)から通知書を受け取る山内照代所長(右)と佐賀市の損保ジャパン佐賀支店
 人化を平成十一年度から助成しており、本年度は全国二百二十九件の応募の中から七十件が選ばれた。県内からは今回を含め計十団体が支援を受けたい。



佐賀市の損保ジャパン佐賀支社であった贈呈式で、佐藤彰彦九州中央支店長が山内所長に助成通知書を手渡した。山内所長は「通所事業の充実やグループホームへの展開など、NPO化で活動の幅が広がられる」と話していた。

障害者福祉団体へ 助成金通知書贈呈

損保ジャパン記念財団

【諫早】損保ジャパン

記念財団(本部東京、理事長・平野浩志損害保険ジャパン社長)は三日、社会福祉活動の一環で、特定非営利活動法人(NPO法人)の設立資金として、諫早市八天町の障害者福祉団体「マンボウの会」(庄子裕子代表)に助成金交付の決定通知書を贈呈した。同財団は、損害保険ジャパンの関連団体。NPO法人設立費用として一九九九年から助成金を交付。本年度は全国の障害者・高齢者福祉団体、計七十団体に設立資金として各三十万円を贈る。マンボウの会は、諫早市で障害者自身が店舗型の小規模作業所を運営しているほか、十月から障害者がパソコン指導を実施する予定。



助成金決定通知書の贈呈式
 〓マンボウの会事務所

損害保険ジャパン長崎支店の潮崎学支店長がマンボウの会の事務所を訪問。庄子代表に「福祉の向上に寄与し、市民活動のリーダーとして活躍してほしい」と、決定通知書を手渡した。同代表は「団体なのでとても助かる。これからやりがいを持って生き生きと働きたい」とお礼を述べた。県内で同財団の助成を受けるのは三例目。

さいき未来21さんは、身障者の交流の場を提供する目的で設立された団体です。身障者が集まって交流できる喫茶店風の素敵なスペースを確保されているほか、楽器演奏のファミリーコンサートやパソコン教室等の活動をされています。代表の坪根さん、担当者の横原さんほか幾人もの人々の情熱に支えられ、運営されています。初めてお会いする我々にも熱心に語りかけていただき、県南地区において、自分達の手で身障者の交流の場を作りたいとの熱い思いがひしひしと伝わってきました。手作りのお菓子、CD2枚も頂戴し帰ってきました。運営に携わる方々がいきいきと活動されている姿を拝見し、その人生の充実感にうらやましささえ感じました。非常に感慨深い一日となりました。(大分支店 リーダー 半沢 宏志さん)

佐伯の団体にNPO 法人設立への助成金
 損保ジャパン財団
 佐伯市内のボランティア団体「さいき未来21」(坪根邦子代表、五十人)に九月二十八日、損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)からNPO法人設立のための資金三十万円が助成された。



「地域社会の福祉向上に 寄与することを期待します」と述べ、坪根代表に助成決定通知書を手渡した。さいき未来21は、ボランティアを拠点に、ボランティア活動をしている。今後も在宅障害者への支援事業や相談業務を行うため、NPO法人設立の準備をしている。損保ジャパン記念財団では民間の福祉活動を推進しようと、一九九九年からNPO法人設立のための資金助成をしている。ことしも全国七十団体に助成するが、県内ではさいき未来21の二団体だけ。

